

# 目次

序	
目次	
1 緒言	3
2 調査にいたる経緯	4
3 調査の経過と概要	6
4 興福寺の伽藍と中門	8
5 発掘調査の成果	12
(1) 建物・基壇上の遺構	12
(2) 基壇外周の遺構とその変遷	18
(3) 回廊内の遺構	23
6 出土遺物	26
(1) 瓦	26
(2) 土器	29
(3) 金属製品・銭貨	30
7 まとめ	31
報告書抄録	32

## 例言

1. 本書は、興福寺境内第1期整備事業にともなう平成10年度発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、興福寺の委託を受けた奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が、平成10年10月2日から平成11年1月21日にかけて実施した。
3. 調査は、山崎信二・高妻洋成・次山 淳・高橋克壽・古尾谷知浩・西山和宏が担当し、金 真成（大韓民国全南大学校湖南文化研究所特別研究員）、ウン・モニター、ペン・サムアン、ウン・ソックルチア（カンボディアプノンペン芸術大学卒業生・アンコール文化遺産保護共同研究招聘者）の参加を得た。
4. 調査ならびに本書の編集に際しては、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、京都国立博物館、奈良国立博物館、(株)飛鳥園、(株)国際航業、中造園の協力を得た。
5. 本調査は、平城宮跡発掘調査部の第297次調査として実施したもので、各遺構には平城京左京における調査基準に従い一連の番号を付した。発掘遺構図に付した座標値は、国土方眼第VI座標系による。
6. 本書の作成は、当調査部部长・田辺征夫の指導のもと調査員全員があたり、全体の討議をへて出土遺物の項を分担執筆とし、他の項の執筆と編集は次山淳がおこなった。遺構・遺物の写真は、佃幹雄および次山が撮影した。